

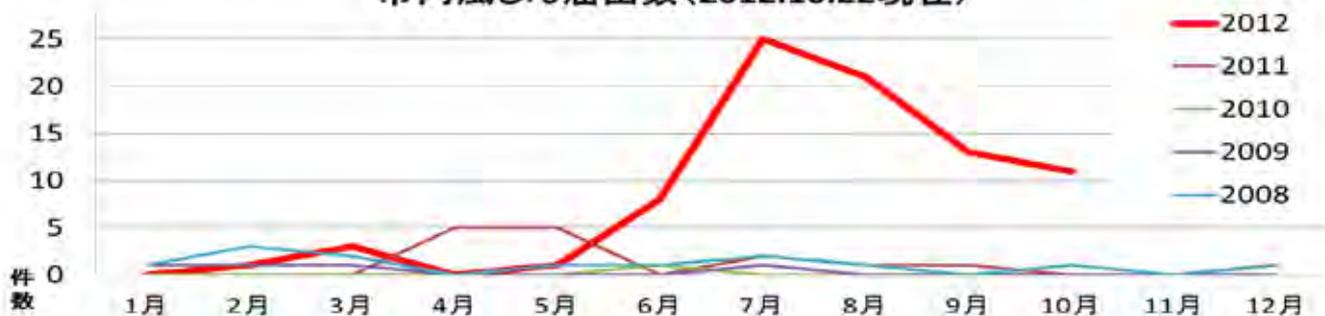
## 今月のトピックス

- Ⅰ 風しんの流行が継続しています。
- Ⅰ RS ウイルス感染症の報告数が多い状況が続いています。
- Ⅰ マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

## 全数把握の対象

- 1 細菌性赤痢: 1 件の *Shigella sonnei* の報告がありました。渡航先(インド)での感染が推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: 8 件(O157 VT1VT2 4 件, O157 H7VT1VT2 1 件, O157 H7VT2 1 件, O111 VT1VT2 2 件)の報告がありました。O111 の 2 例はきょうだい例でした。感染原因はいずれも調査中です。腸管出血性大腸菌感染症の感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。  
啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>
- 3 デング熱: 2 件の報告がありました。どちらも渡航先(1 件はフィリピン、もう 1 件はインド)での感染が推定されています。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 3 件の報告がありました。1 件は国内での感染が推定されているものの感染経路は不明、もう 1 件は国内での異性間性的接触による感染が推定されています。残るもう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。
- 5 ウイルス性肝炎: 1 件の B 型肝炎の報告がありました。横浜市内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 急性脳炎: 1 件(幼児)の報告がありました。病原体は HSV(型別不明)でした。
- 7 クロイツフェルト・ヤコブ病: 1 件の古典型クロイツフェルト・ヤコブ病の報告がありました。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 1 件の無症状病原体保有者の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 9 ジアルジア症: 1 件の報告がありました。カザフスタンでの経口感染が推定されています。
- 10 パンコマイシン耐性腸球菌感染症: 胆管炎患者の胆汁から検出された、1 件の vanC 型の報告がありました。
- 11 風しん: 11 件の報告がありました。全国的な流行は第 30 週をピークに減少傾向となっていますが、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも 10 月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の 20~40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

市内風しん届出数(2012.10.22現在)



風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

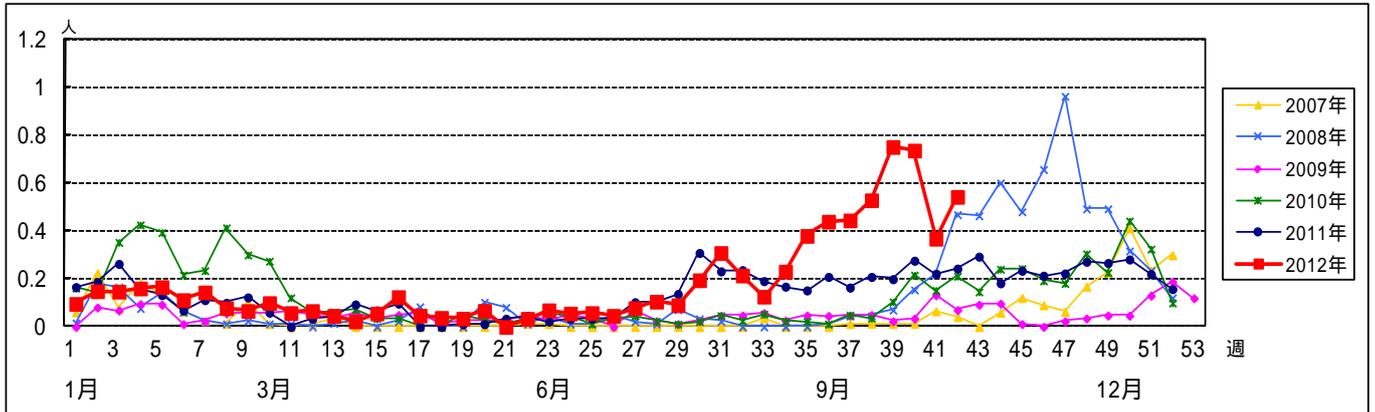
<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

## 定点把握の対象

- 1 **RSウイルス感染症**: 今年は30週頃から全国的に流行がみられています。市内でも7月ごろから増加し、39週は定点あたり0.75となりましたが、翌40週から減少に転じ、42週では0.54となりました。ただ、全国的には流行が継続しており、引き続き注意が必要です。都道府県別の報告をみると、第42週では、福井県3.09、山形県2.83、新潟県2.82、宮崎県2.58、秋田県2.46、佐賀県2.17となっています。関東周辺では東京都1.15、千葉県0.74、神奈川県0.52となっています。

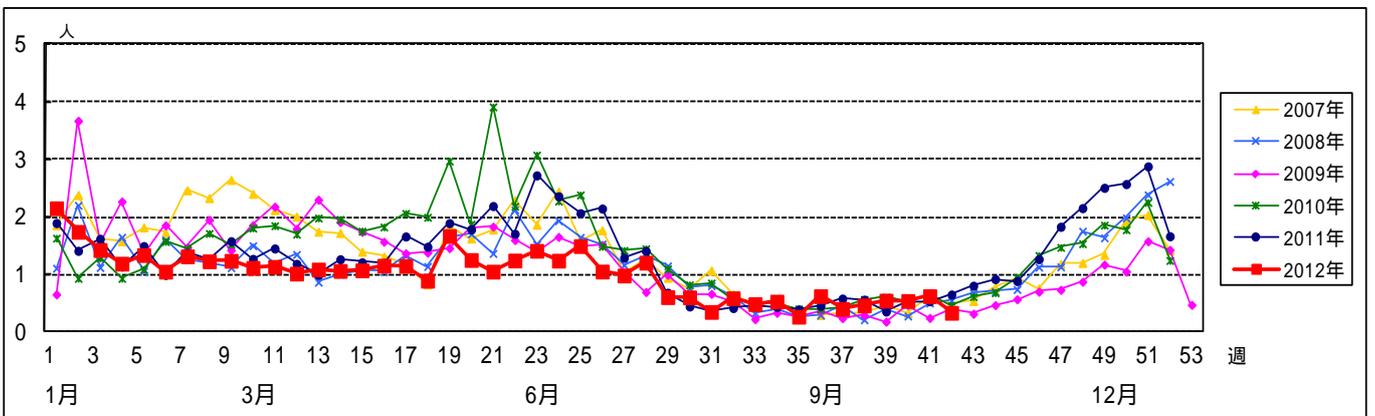
平成24年 週 - 月日対照表	
第39週	9月24日～30日
第40週	10月1～7日
第41週	10月8～14日
第42週	10月15～21日



IDWR 第40週: 注目すべき感染症「RSウイルス」

<http://www.nih.go.jp/niid/images/idwr/kanja/idwr2012/idwr2012-40.pdf>

- 2 **水痘**: 第42週は市全体で定点あたり0.34と、大きな流行は見られませんが、38週0.47、39週0.55、40週0.55、41週0.63と報告が増加傾向にあり、例年これからの時期に流行がみられるので注意が必要です。



- 3 **性感染症**: 9月は、性器クラミジア感染症は男性が28件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が4件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が18件、女性が0件でした。
- 4 **基幹定点週報**: 最近マイコプラズマ肺炎は全国的に流行していますが、今年は春ごろから徐々に増加し続け、第35週以降は定点あたり1.00を超えています。さらに、第39週1.18、第40週1.26、第41週1.08と報告数の多い状況は続いています。横浜市でも第39週2.00、第40週2.33、第41週1.67と、報告が多い状態が継続しています。無菌性髄膜炎が第40週に1件(幼児、病原体は未検出)報告されました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 **基幹定点月報**: 9月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>